

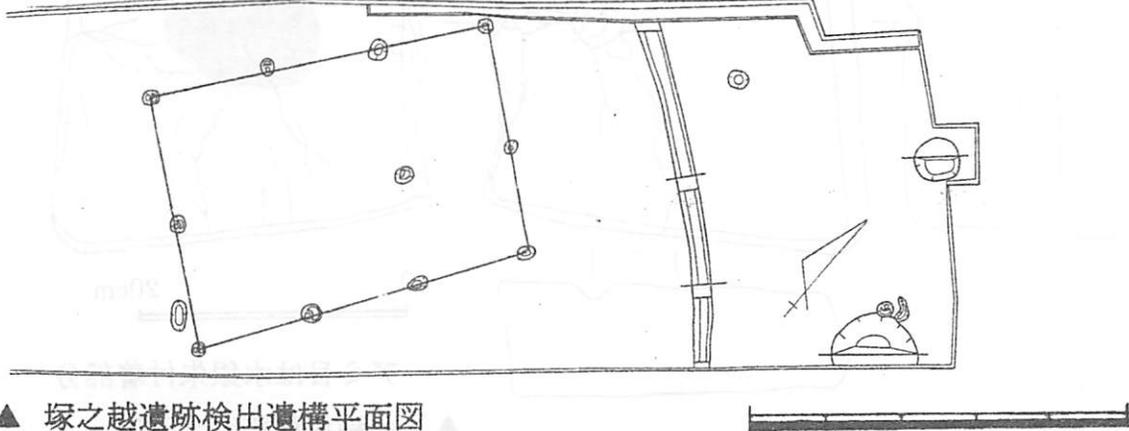
第129号 通巻23巻 第2号  
 2003年7月1日 発行  
 守山市立埋蔵文化財センター  
 Tel・Fax 077-585-4397  
 〒 524-0212  
 守山市服部町2250番地

5月の連休明けから、一斉に発掘調査が市内各所で始まりました。6月中旬からは本格的に梅雨入りとなり、どこの現場も排水作業を繰り返しています。今号では、本格的に開始された発掘調査の成果を中心にお伝えします。

**1、塚之越遺跡（17次調査）の調査**

5月6日から、古高町地先の物部小学校西側の水田地において、宅地造成工事に先立ち発掘調査を行っています。現在、開発に伴う道路予定地を対象に調査を実施していて、掘立柱建物や溝・土坑などが検出されています。掘立柱建物は2間×3間（3.5m×4.5m）の小型の建物です。建物に平行して幅40cm、深さ10cm程の浅い溝が検出されており、区画溝と思われます。区画溝の東側には井戸と見られる大きな土坑（SE-1）が検出されています。各遺構からは形のわかる遺物がほとんど出土していませんが、土器片から鎌倉時代の建物とそれに伴う遺構と考えられます。

この他、近世の耕作痕や溝などが検出されているほか、古墳の周濠しゅうごうの一部が見つっています。古墳の規模は不明ですが3基以上あり、何れも方墳ほうふんと思われます。周濠からは弥生後期末から庄内式併行期の土器細片が出土していますが、4世紀後半の完形に近い土器が出土しており古墳時代前期末の古墳とみられます。塚之越遺跡は弥生時代末から古墳時代前期に発達する下長遺跡の墓域であることがわかっていて、方形周溝墓群せんぼうこうほうや前方後方型周溝墓がたしゅうこうぼ、方墳などが発見されています。今回の調査でも、下長遺跡に居住していた有力者の墓の実体が判明するものと期待しています。（伴野）



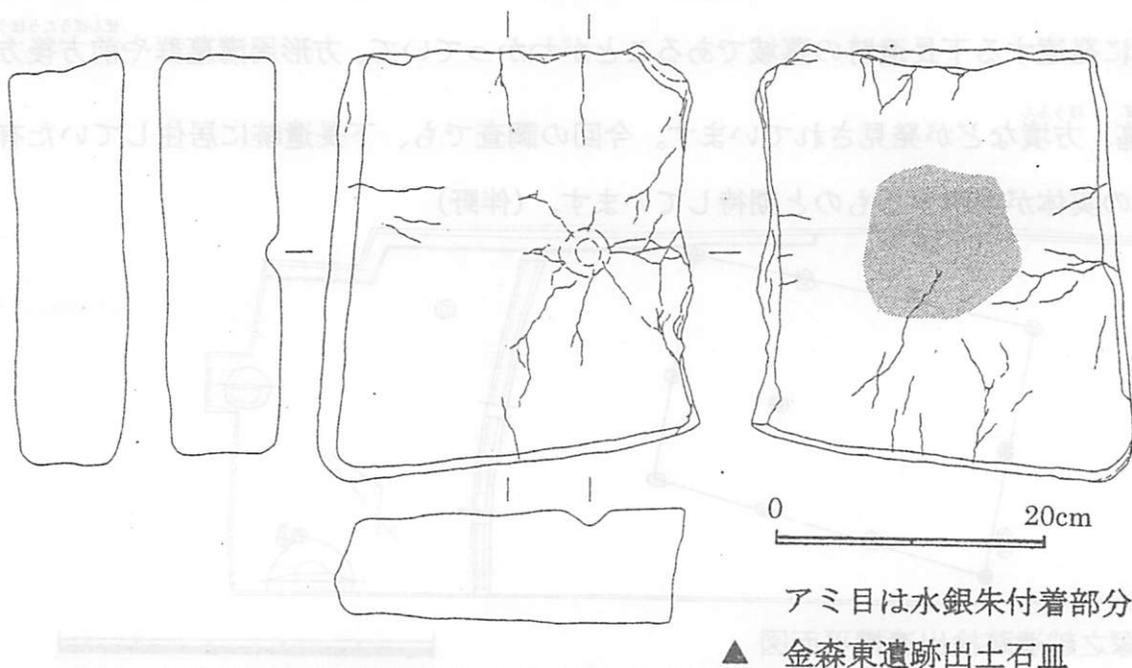
▲ 塚之越遺跡検出遺構平面図

## 2、金森東遺跡（30次調査）の調査成果

昨年度に引き続き、区画整理事業に先立ち金森東遺跡の調査を実施しています。今回は昨年度の調査によって守山市内で初めて出土した石臼について報告します。旧河道内から、弥生時代末～古墳時代初頭の土器とともに石臼が出土しました。石臼は直方体状で長辺 32.3cm、短辺 29.2cm、厚さ 8.7cm を測り、重量は 15.5kg もあります。両面とも表面が滑らかですが、僅かに凹凸があり片面の中央が赤くなっています。赤くなっている部分の成分を調べるため<sup>けいこう</sup>蛍光X線分析を行ったところ、<sup>すいぎんしゅ</sup>水銀朱が付着していることが判明しました。辰砂と呼ばれる水銀を含む岩石を砕いて、水銀朱を作り出す作業を行った石臼とみられます。反対側には水銀朱の反応はありませんでしたが、中央寄りに小さな窪みがあり水銀朱以外のものをすりつぶしたくぼみとみられます。

水銀朱は、古墳などの埋葬施設や特殊な木製品の装飾に使用されるほか、「<sup>せんやく</sup>仙薬」として飲用されたと考えられています。方形周溝墓に備えられた土器や、竪穴住居から出土する椀状の土器に水銀朱が付着するものがあり、実際に飲用していた可能性があります。こうした水銀朱の使用は古代中国で流行していた「<sup>しんせんしそ</sup>神仙思想」に係わりがあり、鏡などと伴って日本にもたらされたと考えています。

守山市内では播磨田東遺跡・酒寺遺跡・下長遺跡などから<sup>いしきね</sup>石杵が出土しており、水銀朱の原料を入手し加工・精製する技術をもった人々がいたことがわかります。技術とともに新しい宗教・思想が流入していたとみられます。（大岡）



### 3、古高・経田遺跡の調査 微地形の復元

5月下旬から第三工区の調査を再開しています。今回は古高・経田遺跡の調査対象地に等高線を引き、土地の起伏を復元してみました。昭和57年度に作成された1/1000の地図を基に10cmの等高線図を作成してみると、対象地の低い所は標高93.0m、高い所は96.1mでした。等高線図から、埋没している微高地と谷地形—川を復元し、調査成果と合わせ検討すると次のことがわかってきました。

低地① 調査地北東端部分にある谷地形。未調査地。

川① 微高地②の北西から微高地①と③の間にあり、今回の調査で弥生時代後期の旧河道を検出している。

川② 微高地②の東から微高地③と④の間にあり、今回の調査で弥生時代後期の旧河道を検出している。

低地② 調査地南西にある緩やかな谷地形。未調査。

微高地① 川①の南西にある微高地。川①のそばで縄文時代後期の遺構が見つまっている。他に弥生中・後期の方形周溝墓群や古墳時代前期の前方後方周溝墓群・竪穴住居3棟が検出されている。

微高地② 川①と川②に挟まれた高い部分。

微高地③ 川①の西にある微高地。川①のそばで縄文時代の遺構を検出している。微高地の北側で弥生時代後期から古墳時代の竪穴住居3棟が検出されている。

微高地④ 川③の南にある微高地。B地点は標高95.6mの広い場所で平安時代後期の掘立柱建物6棟が検出されているほか、その東側で弥生時代後期の方形周溝墓3基が見つまっている。微高地④の北側では中世以前の遺構は検出されていない。A地点をボーリング調査したところ地表から4.1m下に旧河道が埋没していることが判明した。



▲ 古高・経田遺跡の微地形復元図

#### 4、焰魔堂遺跡の調査

今宿二丁目字柿の木において宅地造成に先立ち、道路部分約 3,000 m<sup>2</sup>を対象に調査を実施しています。これまでの調査で方形周溝墓5基、土壙墓1基、竪穴住居1棟のほか土坑・柱穴等を検出しています。方形周溝墓には周溝幅が1m未満とそれを越える大きなものがあります。竪穴住居は方形周溝墓に切られていましたが、周壁溝が巡っていたことがわかりました。土壙墓は長方形プランで長辺 1.5m、短辺1mを測ります。土壙底部には木口板の痕跡があり、組み合わせ式の木棺墓であった可能性があります。出土遺物が少ないものの、古墳時代前期の遺構と思われれます。(畑本)

### お知らせ

市立埋蔵文化財センターでは、歴史入門講座を開催しております。今年度は県下の主要河川沿いの遺跡をテーマに開催します。去る6月21日には第1回入門講座、高時川流域～古墳時代の玉づくり～について高月町教育委員会の沢村治郎氏より講演頂きました。次回以降の日程は以下の通りです。

#### 記

全体テーマ **「琵琶湖と主要河川流域の遺跡」**

- 講座日程 第2回 7月19日(土) 愛知川流域 ～石田遺跡を中心に～  
講師 杉浦隆支氏 能登川町教育委員会
- 第3回 8月16日(土) 犬上川流域 ～縄文の集落～  
講師 中村健二氏 (財)滋賀県文化財保護協会
- 第4回 9月20日(土) 安曇川流域 ～高地性集落と古墳群～  
講師 宮崎雅充氏 新旭町教育委員会
- 第5回 10月18日(土) 瀬田川流域 ～官衙関連遺跡の調査～  
講師 田中久雄氏 大津市教育委員会
- 第6回 12月20日(土) 野洲川流域 ～中世集落と館の発生～  
講師 福永清治氏 野洲町立歴史民俗資料館

#### 塚之越遺跡現地説明会の案内

今回の乙貞で報告しました塚之越遺跡の現地説明会を開催します。

古墳時代前期の下長遺跡に住まいした有力者の墓域とみられる塚之越遺跡。墓域の実態が明らかになりつつあります。

多数ご参加下さるようご案内申し上げます。小雨決行。

日時 平成15年7月27日(日) 午前10時30分～12時まで

場所 守山市古高町地先 物部小学校西側約100m

問い合わせ先 守山市立埋蔵文化財センター Tel. 585-4397



▲ 現地説明会会場位置図